

お薬の豆知識

パーキンソン病薬 ~その1~

薬剤師
耕崎 紀子

パーキンソン病：脳内のドパミンという神経伝達物質が減少・不足することで、筋肉のこわばりや震えなどの症状が起こります。よって、ドパミンをいかに有効に活用するかが治療の鍵となります。さまざまなタイプの薬があるので、今号と次号の2回にわたってできるだけわかりやすく説明いたします。

レボドパとして脳の中に入ったのち、ドパミンに変換されて活用されます！

①レボドパ製剤

メネシット配合錠 100mg
(後発品ドパコール配合錠 L100, L50)
マドパー配合錠



ドパミンの受け取り口に働きかけて、ドパミンと同じように効果を発揮します

②ドパミン受容体作動薬

ビ・シフロール錠 ミラペックス LA 錠
レキップ錠 レキップ CR 錠
ペルマックス錠 ニュープロパッチ



①のレボドパ製剤が長〜く効くようにサポートする役目です

③COMT 阻害薬

コムタン錠



貼り薬タイプもあります

①と③の合剤：スタレボ配合錠

1錠で二役



④MAO-B 阻害薬

エフピーOD錠



ドパミンの分解を防いでドパミンの量を保ちます